

3月	矢作川 モニター報告	区間	左岸4.6KM～ 11.4KM
----	------------	----	-----------------

概況

気温も上場に高くなり、月末には桜が満開となった。
 川中はまだ水が冷たいようで、流れの中では、魚の姿を見いだせなかった。
 水たまりの様な処では、小魚が足音に驚き、動き回る様子が見られた。
 また、人出もあるだろうと想定し、あったかい土曜日の午後(24日)にモニターに出かけた。案の定、西尾緑地公園で子供たちがサッカーの練習試合をしていた。

1月に紹介たカモ池より約50メートル上流に少量の家庭排水と川に水が溜まる
 ところがあり、18日に小魚の魚紋をみつけた。
 正体を確かめようと、24日にタモとバケツ持参し捕獲を試みた。幸い1.5～2.0センチ
 を10匹捕獲した。一見してメダカの類とおもった。
 小魚の正体は、帰宅後ルーペ等で観察したところ、尾がうちわ型をしており、
 期待していた黒メダカでなくカダヤシであった。
 知っている方も多いと思うが、黒メダカは絶滅危惧種で、カダヤシは外来種で黒メダカ
 の卵を食べるため、飼育や放流が禁止されている。



なお、カモ池にカモは帰っていませんでした。

粘土底の水たまり(米津橋下流150メートル)

ここは本流のそばまで行けるところであり、水量の少ないとき水溜まり
 のできる粘土底の場所です。暖かい時にはいつも小魚がいるところ
 です。24日は水量がやや多く、魚を捕まえることはできませんでした。

アユの遡上。

桜のころには、アユの稚魚が大量に遡上しそれを追ってシーバスも遡上
 してくると聞いていました。それを確認したく志貴野橋(23号線平行)より
 川中を覗いてみましたが、魚影はみつきりませんでした。
 そこより下流で(10.6km)で釣り竿を振っている人がいました。
 アユの稚魚を狙っているのかと思い、しばらく遠くから見でしたが、なにも
 釣れていないようでした。